

第89回原子力規格委員会 議事録

1. 日 時 2024年3月21日(木) 13時30分～17時15分

2. 場 所 一般社団法人 日本電気協会 4階 A, B会議室 (Web会議併用)

3. 出席者 (敬称略, 順不同)

出席委員：阿部委員長(東京大学), 吉田副委員長(日本原子力発電), 斉藤幹事(東京大学)*1, 大坂(日立GEニュークリア・エナジー), 室伏(東芝エネルギーシステムズ), 佐藤(MHINSエンジニアリング), 神坐(富士電機), 大平(日本原子力発電), 尾崎(中部電力), 波木井(東京電力HD), 藪内(鹿島建設), 竹内(日本原子力研究開発機構)*2, 伊藤(日本原子力研究開発機構)*3, 三浦(電力中央研究所), 大橋(日本原子力保険プール), 村上(東京大学)*4, 爾見(発電設備技術検査協会), 吉岡(日本電気協会), 望月(大阪大学, 構造分科会長)*5, 山本(名古屋大学, 原子燃料分科会長), 中條(中央大学, 品質保証分科会長), 藤田(東京電機大学, 耐震設計分科会長), 上叢(日本アイトープ協会, 放射線管理分科会長), 出町(東京大学, 運転・保守分科会長) (計24名)

代理出席：北村(関西電力, 棚橋委員代理), 沼田(関西電力, 高田委員代理), 山田(中部電力, 望月委員代理)*6, (計 3名)

欠席委員：小山(日本製鋼所M&E) (計 1名)

常時参加者：成宮(原子力安全推進協会, 鈴木常時参加者代理) (計 1名)

説明者：安全設計指針検討会 板東主査(東京電力HD), 橋本(日立GEニュークリア・エナジー), 今野常時参加者(三菱重工業), 松下(東芝エネルギーシステムズ)

計測制御検討会 遠藤主査(東京電力HD), 小池常時参加者(東京電力HD), 橋本委員(関西電力), 角木委員(中部電力), 真塩(三菱重工業), 福本(東芝エネルギーシステムズ), 富永(日立GEニュークリア・エナジー), 深見(三菱電機), 大井(三菱電機)

運転管理検討会 坂元主査(原子力安全推進協会), 近藤副主査(東京電力HD)

機器・配管系検討会 呉(三菱重工業), 網野(MHINSエンジニアリング)

各分科会幹事 沼田(関西電力), 山田(中部電力)*6, 三浦(中部電力), 野元(日本原燃), 大浦(日本原子力発電), 永田(日本原子力発電) (計23名)

傍聴者：なし (計 0名)

事務局：奥村, 高柳, 中山, 佐藤, 景浦, 原, 米津, 浅見, 上野, 梅津, 田邊(日本電気協会) (計11名)

*1：15:30 頃から 16:30 頃まで一時退席

*2：議題(2) 1)で退任の挨拶後退席

*3：議題(2) 1)より委員として出席

*4：15:30 頃に途中退席

*5：15:30 頃に途中参加

*6：望月委員出席後は, 説明者として出席

4. 配付資料：別紙参照

5. 議 事

事務局から、本委員会にて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないこと及び録音することを確認の後、議事が進められた。

(1) 会議開催定足数確認他

事務局より、代理出席者3名の紹介があり、原子力規格委員会規約第8条（委員の代理者）に基づき、委員長承認を得た。出席者は代理出席者も含めて現時点で委員総数26名に対して25名の出席であり、定足数確認時点で原子力規格委員会規約第11条（会議）第1項に基づく出席委員は委員総数の3分の2以上の出席という会議開催定足数の条件を満たしているとの報告があった。その後、常時参加代理者1名の紹介があった。続いてWeb会議に対する注意事項の後、第90回原子力規格委員会は、2024年6月25日（火）午後を予定しており、各委員の予定確保をお願いするとの説明があった。その後配布資料の確認を実施した。

(2) 原子力規格委員会委員及び分科会委員の承認

1) 原子力規格委員会委員の変更及び承認（審議）

事務局より、資料No.89-1-1に基づき、下記2名の新委員の紹介の後、藤田委員より挨拶があった。その後、今回退任される竹内委員（日本原子力研究開発機構）の紹介があり、退任の挨拶後退席された。

- ・新委員 高田 委員（東京大学、安全設計分科会長）
- ・新委員 藤田 委員（東京電機大学、耐震設計分科会長）

阿部委員長より原子力規格委員会規約第6条（委員の選任・退任・解任及び任期）第2項に基づき、委員候補の推薦をお願いするとの発言の後、三浦委員より、日本原子力研究開発機構の伊藤氏を新委員として推薦するとの発言があり、原子力規格委員会規約第6条（委員の選任・退任・解任及び任期）第1項に基づき、委員として承認するかについて、原子力規格委員会規約第14条（決議）第4項に基づき、挙手による決議の結果、出席委員全員の賛成により承認された。その後、伊藤委員が原子力規格委員会に出席し、挨拶があった。

2) 分科会委員の変更及び承認（審議）

事務局より、資料No.89-1-2に基づき、以下に示す分科会委員の変更の紹介があり、分科会規約第6条（委員の選任・退任・解任及び任期）第1項に基づき、新委員候補の分科会委員としての承認について、原子力規格委員会規約第14条（決議）第4項に基づき、挙手による決議の結果、出席委員全員の賛成により承認された。

【構造分科会】

- ・退任 李 委員（日本原子力研究開発機構）
- ・新委員候補 勝山 氏（同左）

【原子燃料分科会】

- ・退任 柴田 委員（北海道電力）
- ・新委員候補 安井 氏（同左）

【品質保証分科会】

- ・退任 中村 委員（四国電力）
- ・新委員候補 豊田 氏（同左）

【耐震設計分科会】

- ・退任 野尻 委員（北海道電力）
- ・新委員候補 高橋 氏（同左）
- ・退任 久保 委員（東京大学名誉教授）

【運転・保守分科会】

- ・退任 中村 委員（四国電力）
- ・新委員候補 豊田 氏（同左）

(3) 規格案の審議

1) JEAG4641「原子力発電所における設計・開発に人間工学を体系的に適用するための指針」制定案、

JEAG4617「原子力発電所のヒューマンマシンインタフェースの開発及び設計に関する指針」改定案及び

JEAC4624「原子力発電所の中央制御室における誤操作防止の設備設計に関する規程」改定案

安全設計分科会 計測制御検討会 遠藤主査他 8名の説明者より、資料 No.89-2-1 シリーズに基づき、JEAG4641「原子力発電所における設計・開発に人間工学を体系的に適用するための指針」制定案、JEAG4617「原子力発電所のヒューマンマシンインタフェースの開発及び設計に関する指針」改定案及びJEAC4624「原子力発電所の中央制御室における誤操作防止の設備設計に関する規程」改定案について説明があった。

審議の結果、JEAG4641 制定案、JEAG4617 改定案及びJEAC4624 改定案について書面投票に移行するかについて決議の結果、承認された。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ JEAC4111 と品管規則をこの規格にかなり重点的に適用しているという所もあり、規格の審議とは違う所で質問するが、この規格の作成において、JEAC4111 と品管規則の齟齬について問題になったというような事例はあったか。
 - 品管規則と JEAC4111 の関係で問題になった所は特になかった。原子力規制委員会の人間工学設計開発に関する審査及び検査ガイドを読み込みながら、今回 JEAG4641 をまとめてきたので、あまり品管規則と JEAC4111 の違いについては比較してはいなかったが、少なくとも人間工学設計開発に関する審査及び検査ガイドを見て作業を進める中では、我々のプロセスを考えた時に特に問題となる所はなかった。
 - ・ 資料 No.89-2-1-1 の 17 頁の説明では、**design and development** を設計・開発と定義しており、それと同じ意味でこちらの方でも使用しているということが良いか。
 - 同じ意味で使用している。
 - ・ 前回の中間報告ではかなり多くの指摘等を受けているが、丁寧に対応して頂き感謝する。
 - ・ 中間報告の意見対応により、ここまでの段階で十分に意見交換がされ、対応されたものと判断できると考える。従ってこの 3 つの規格について、書面投票の実施に移行するかについて、意見が有れば願います。
- 特に異論がなかったため、JEAG4641、JEAG4617、JEAC4624 の 3 規格について、下記条件で書面投票に移行するかについて、原子力規格委員会規約第 14 条(決議)第 1 項に基づき、挙手による決議の結果、出席委員全員の賛成により承認された。
- ・ 書面投票期間は 3 月 22 日(金) から 4 月 11 日(木)の 3 週間とする。
 - ・ 書面投票の結果、可決された場合には公衆審査(2 ヶ月間)に移行する。なお、公衆審査開始までの編集上の修正については、原子力規格委員会の委員長、副委員長及び幹事に判断を一任する。
 - ・ 公衆審査で意見が無く、以降発刊迄の編集上の修正については、出版準備(校閲)の範疇として、分科会の責任で修正を行う。
 - ・ 編集上の修正範囲内での意見があった場合には、原子力規格委員会の委員長、副委員長及び幹事の判断により編集上の修正を承認し、修正内容について委員に通知をして、発刊準備に入る。

- ・編集上の修正を超える修正を要する意見があった場合には、別途審議（書面投票又は委員会審議）を行う。

2) JEAC4804「原子力発電所運転責任者の判定に係る規定」改定案

運転・保守分科会 運転管理検討会 坂元主査他 1名の説明者より、資料 No.89-2-2 シリーズに基づき、JEAC4804「原子力発電所運転責任者の判定に係る規定」改定案について説明があった。

審議の結果、JEAC4804 改定案について、書面投票に移行するかについて決議の結果、承認された。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・規格の内容そのものではないが、コメントと意見が有る。資料 No.89-2-2-6 で運転・保守分科会 糸井委員から頂いた意見に対して、回答が噛み合っていないようなので、少し心配になった。糸井委員ご意見の趣旨は、本文中に附属書が引用されていなければ規格としては不適切であるということと考える。規格の中に附属書 M を参考として引用している箇所が有るのか。
 - 附属書 M を引用している箇所はなく、附属書 M には規格全体の参考とした文献が書いてある。
 - ・それはお作法としては良くない。参考文献を書くのであれば、本文中には書けないので、解説の所に記載する等の方が良いのではないかという意味でのご意見だと思う。附属書は本文で引っ張ってこないといけないというのが基本的な考え方と思うので、本文の中に記載がなく、いわば盲腸のように残っているというのが良くない。
 - 附属書 M 自体を削除した方が良いということか。
 - 附属書 M を削除して、例えば解説の最初の方に「なお、こういうものを参考とした」というように残しておくのが良いと考える。
 - 事務局とも相談しながら、あるべき姿に持っていく。
 - ・「次」と「以下」について、あえて「以下」としたというのも、文書として収まりが良いということであれば良いが、どうか。
 - 検討したが、「次に」というと「NEXT」と読めると考えられるため、「以下」の方が良いと考えた。
 - ・誤解をされないように「以下」にしたということであれば良いと考える。JIS を無視したような趣旨は良くないのでコメントした。
 - ・資料 No.89-2-2-1 の 6 頁で解説 32 はすべて削除してある。運転責任者を選任してある条件が消えても問題ないのか。
 - 解説 32 は、法令上必要でない廃止措置プラントに対して事業者が自主的に運転責任者を配置している場合でも、運転責任者の更新がしやすいように、救済措置として記載したもの。現在では矛盾が生じており、削除しても問題ない。
 - ・今回の意見は編集上の修正と考えるので、適切に対応してもらいたいと。意見が出尽くしたと考えるので、書面投票に移行するかについて決議を取りたい。
- 特に異論がなかったので、JEAC4804 改定案について、下記条件で書面投票に移行するかについて、原子力規格委員会規約第 14 条(決議)第 1 項に基づき、挙手による決議の結果、出席委員全員の賛成により承認された。
- ・書面投票期間は 3 月 22 日（金）から 4 月 11 日(木)の 3 週間とする。

- ・ 書面投票の結果、可決された場合には公衆審査（2ヶ月間）に移行する。なお、公衆審査開始までの編集上の修正については、原子力規格委員会の委員長、副委員長及び幹事に判断を一任する。
- ・ 公衆審査で意見が無く、以降発刊迄の編集上の修正については、出版準備（校閲）の範疇として、分科会の責任で修正を行う。
- ・ 編集上の修正範囲内での意見があった場合には、原子力規格委員会の委員長、副委員長及び幹事の判断により編集上の修正を承認し、修正内容について委員に通知をして、発刊準備に入る。
- ・ 編集上の修正を超える修正を要する意見があった場合には、別途審議（書面投票又は委員会審議）を行う。

(4) 規格の策定状況(中間報告)

1) JEAC4622「原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程」改定案

安全設計分科会 安全設計指針検討会 板東主査他 3名の説明者より、資料 No.89-3-1 シリーズに基づき、JEAC4622「原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程」改定案について中間報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 資料No.89-3-1-1の10頁と11頁で、主な論点がどこに書かれているのかが「論点」と「記載内容」に記載されている。例えば10頁を見ると本文に書かれるべきことは、事象選定においては、一番厳しいシーケンスを選定することや、被ばく評価においては、よう素の形態を考慮してソースタームを設定することや、評価方法などである。データとか考慮すべき点は、附属書、解説書に記載しているのか。本文と附属書、解説書の考え方を教えてほしい。
- ご認識のとおりである。考え方としては、決して変えてはいけない要求事項については本文に記載して、具体的な数字や式については附属書、解説書に記載するということであり、7頁のSA編作成方針では大きな枠組みで言うと、本文としては大きな手法や共通的な解析条件に止めているというのが今の考え方である。
- ・ 本文と附属書と解説書についてはガイドに合わせた章立てになっているのか。
- そういう訳でもなく、細かい所については附属書に落としているところもあり、決して曲げてはいけない要求事項だけを本文に書いているというイメージで見てもらった方が良いかと思う。
- ・ 12頁の今後の課題で、中央制御室に限らずということであるが、緊急時対策所は良いが、緊急時制御室とはECRのこと、特重の制御室のことを言っているのか。
- そのとおりである。
- ・ 基本的な評価の考え方は同じかもしれないが、規程に定めるべきことなのか、各事業者が原子力規制庁と決めると良いことなのか、規格にする話なのかどうかというところをどのような観点で議論したのか。
- 難しい所であるが、テロ対策設備であるので情報規制がかかるものになる。規定にするということで案は作っているが、当たり障りのない所までしか書けないという所も有る。緊急時制御室について、この規程により全てまかなえるという訳ではないと考えているが、現状の中間報告の案としては入れた形で作ってある。
- ・ 本文に書かれている程度であれば緊急時制御室でも読めなくはないが、公開できない話は規格で書くべきではなく、書かなければ評価方法が中途半端になるとも思われるので、緊急時制御室を規格に入れることが適正か否かはもう少し議論が必要と感じた。
- 引き続き検討する。

- ・ かつての事故時被ばく評価はかなり保守性が有ったと思うが、通常の事故時被ばく評価と、今回提案のあった制御室被ばく評価について、どういった保守性が有るのか教えてほしい。
- DB 編もかなり保守的であり、昔で言う重大事故、仮想事故という形になるが、BWR では炉内全燃料にピンホールが開いている状態で LOCA や主蒸気管破断が起こるといった評価をしているのが元々の設計基準事故であり、かなり保守的である。重大事故時編では、例えばフィルターベントを使用して放出をする場合、大 LOCA が発生し、全交流電源が喪失し、ECCS ポンプが全て使えない状態からスタートするシナリオとしてはかなり厳しいものの、新規制基準に基づいた想定により保守性は見込んでいられる。とは言っても、SA では過度に保守的にならないように、ある程度現実に即した評価をするという根本的な考え方があるので、一定程度の保守性は持たせるが、過度の保守性は持たせないというところでバランスを取って評価していると考える。緊急時対策などは、もっと先において滞在しなければいけない最後の砦であろうという所もあり、福島第一原子力発電所事故相当を想定しても、7 日間は滞在できるといった評価をしているところに保守性はあるものと考えられる。
- ・ 事故時の状況については、日本原子力学会等から色々な報告書が出ていたり、日本原子力学会の標準も有ったりして、そういうものについても確認はしているのか。
- 矛盾は無いと考えているが、今言われた事故時ということの意図をもう少し説明をして欲しい。
- ・ 事故に関連した報告書は沢山出ているので、そういったものを参照して、矛盾が無いように設定しているのかということだが。
- 福島第一原子力発電所の事故という意味で良いか。
- ・ そのとおりである。
- この規程を改定するために、特別に見ているというよりは、安全審査の結果を取り込んでいることや、検査ガイドの中で取込まれていることで確認できていると思っている。電力会社としての目で見ても矛盾は無いのかと思っている。
- ・ 本件に関しては中間報告となっているので、提出された資料を確認して頂き意見伺いを 3 月 22 日(金)から 4 月 21 日(日)までの 1 ヶ月間実施したい。

(5) その他(その 1)

1) JEAC4601-2021「原子力発電所耐震設計技術規程」の誤記

耐震設計分科会 野元幹事、機器・配管系検討会 2 名の説明者より、資料 No.89-4-1 に基づき、JEAC4601-2021「原子力発電所耐震設計技術規程」の誤記について説明があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 資料 No.89-4-1 の 2 頁の表 1 の下に今回確認された誤記は、JEAC4601-2021 において新たに発生したものであることと、JEAC4601-2015 での式には間違いが無かったことは、重要な確認結果として 1. 確認結果に記載しておいた方が良い。また、確認であるが、この式を使用して計算をした結果としての数値は修正の必要が有るのか。
- 間違った式で計算した場合と、正しい式での計算結果について表 3 にまとめている。
- ・ 表 3 の計算結果は、規格には記載されていない数値ということか。
- そのとおりである。
- ・ JEAC4601-2021 を審査に使用したことは無いということであるが、それは新規制基準適合性審査以外でも各社使用実績が無いということか。

- 電気事業連合会にもお願いして確認を取っている。設計に使用していないかという観点で確認いただき、設計に使用している事業者は無いということであった。
- ・ 設備設計そのものにも使用していないのか。
- そのとおりである。
- ・ 誤記訂正の作業ということで、これからさらに大変かもしれないがよろしく願います。

(6) 令和5年度原子力規格委員会功労賞対象者(審議)

事務局より、資料 No.89-5 に基づき、令和5年度原子力規格委員会功労賞対象者について説明があった。対象者を表彰者として認めるかについて決議の結果、承認された。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 皆さん原子力規格委員会には多大なご貢献を頂いた方なので、是非表彰者として認めたいと考える
- 特に異論がなかったため、原子力規格委員会功労賞規約第4条(先行及び決定)第6項に基づき対象者を表彰者として認めるかについて原子力規格委員会規約第14条(決議)第4項に基づき、挙手による決議の結果、出席委員全員の賛成により承認された。

(7) 2024年度活動計画、各分野の規格策定活動(審議)

各分科会幹事及び事務局より、資料 No.89-6 シリーズに基づき、2024年度活動計画、各分野の規格策定活動について説明があった。

2024年度活動計画、各分野の規格策定活動について、資料 No.89-6 シリーズを承認するかについて決議の結果承認された。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 炉心・燃料関係で取替炉心の安全性について話が有ったが、BWRは過渡解析にTRACを使用するという話であるが、PWRの方はどうなのか。
- PWRは使用せずBWRのみである。
- ・ 解析コードの見直しについては以前からあり、BWRではREDY, SCAT等を昔から使用しているが、解析コードの世代交代を実施するのか。それともそのままなのか、PWRも含め状況を教えてほしい。
- TRACは3次元の核熱結合コードであり、REDY, SCATの次の世代の解析コードを使おうということ。PWRの方は、既に重大事故の有効性評価を3次元の核熱カップリングを使って行っており、解析コードという意味では一歩進んでいるという状況にある。
- ・ 来年度に廃止の予定のJEAC4803-1999について、運転・保守分科会及び基本方針策定タスクにて報告済の資料を別途追加で配布したい。
- ・ 実際に廃止する段階で議論した方が良いと考えるが、あえて今回追加で配付する必要があるのか。
- 運転・保守分科会としては、来年度の廃止に向けた対応方針を、原子力規格委員会の委員にもこの時点で示した方が良いと考えている。
- ・ 追加で配布することは了承するが、この場で審議は出来ない。廃止の対応が始まった時にもう一度説明を実施してほしい。
- ・ 2024年度活動計画、各分野の規格策定活動で今回説明に使用した資料について、原子力規格委員会として承認するかについて決議を取りたい。

- 特に異論がなかったので、今回 2024 年度活動計画、各分野の規格策定活動を委員会として承認するかについて、原子力規格委員会規約第 14 条(決議)第 4 項に基づき挙手による決議の結果、出席委員全員の賛成により承認された。

(8) 基本方針策定タスク案件の審議・報告

1) 第 9 回原子力規格委員会シンポジウムについて(報告)

事務局より、資料 No.89-7-1 に基づき、第 9 回原子力規格委員会シンポジウムについて報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし。

2) 検査制度見直しに関する国の動向等(報告)

事務局より、資料 No.89-7-2 に基づき、検査制度見直しに関する国の動向等について報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし。

(9) 原子力関連学協会規格類協議会案件の報告

1) 事業者からの技術評価の希望に関する状況

事務局より、資料 No.89-8-1 に基づき、事業者からの技術評価の希望に関する状況について報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし。

(10) その他(その 2)

- ・ ISO 事務局より、資料 No.89-9-1 に基づき、ISO 規格の検討状況について報告があった。
- ・ 阿部委員長より、資料 No.89-9-2 に基づき、前回議事録の紹介があり、審議の結果、特にコメントはなく承認された。
- ・ 事務局より、JEAG4623「原子力発電所の安全機能、重大事故等に対処する機能を有する電気・計装品の耐環境性能の検証に関する指針」改定案について再投票を 3 月 7 日(木)から 3 月 20 日(水)まで実施した結果、可決されたとの報告があった。
- ・ 事務局より、JEAC4201-2021 追補版案は、構造分科会書面投票の意見対応結果について原子力規格委員会三役の確認を受け、3 月 7 日(木)から 4 月 5 日(金)まで書面投票を実施中であるとの報告があった。
- ・ 事務局より、原子力規制庁から JEAC4206-2007 に関する質問があり現在解答を作成中であること、今月中に回答を文書に纏めて先方に送付する予定であること、及び次回の原子力規格委員会で対応状況について報告する予定であるとの報告があった。
- ・ 阿部委員長から 6 月の原子力規格委員会開催日は 6 月 25 日(火)であることを再度、連絡した。

以上

第 89 回原子力規格委員会配付資料

資料 No.89-1-1	原子力規格委員会 委員名簿 (2024 年 3 月 21 日現在)
資料 No.89-1-2	原子力規格委員会 分科会 委員名簿 (案) (2024 年 3 月 21 日現在)
資料 No.89-2-1-1	原子力発電所における設計・開発に人間工学を体系的に適用するための指針 (JEAG 4641) 原子力発電所のヒューマンマシンインタフェースの開発及び設計に関する指針 (JEAG 4617) 原子力発電所の中央制御室における誤操作防止の設備設計に関する規程 (JEAC 4624) 制定及び改定検討概要
資料 No.89-2-1-2-1	原子力発電所における設計・開発に人間工学を体系的に適用するための指針 JEAG 4641-202X 制定案
資料 No.89-2-1-2-2	原子力発電所における設計・開発に人間工学を体系的に適用するための指針 JEAG 4641-202X 制定案 (附属書)
資料 No.89-2-1-3-1	JEAG4617-202X 「原子力発電所のヒューマンマシンインタフェースの開発及び設計に関する指針」改定案 新旧比較表
資料 No.89-2-1-3-2	原子力発電所のヒューマンマシンインタフェースの開発及び設計に関する指針 JEAG 4617-20XX 改定案
資料 No.89-2-1-4-1	JEAC4624-20XX 「原子力発電所の中央制御室における誤操作防止の設備設計に関する規程」改定案 新旧比較表
資料 No.89-2-1-4-2	原子力発電所の中央制御室における誤操作防止の設備設計に関する規程 JEAC4624-20XX 改定案
資料 No.89-2-1-5	JEAG 4641-202X/JEAG 4617-202X 改定対照表
資料 No.89-2-1-6	規格制改定時に対象とした国内外の最新知見とその反映状況 JEAG4641, JEAG4617, JEAC4624
資料 No.89-2-1-参考 1	HFE 関連規格制改定案に対するコメント対応について (第 87 回原子力規格委員会中間報告)
資料 No.89-2-1-参考 2	HFE 関連規格制定改定案に対する安全設計分科会書面投票意見対応表
資料 No.89-2-1-参考 3	JEAG 4641-202X 「原子力発電所における設計開発に人間工学を体系的に適用するための指針」に関するコメント
資料 No.89-2-1-参考 4	HFE 関連規格 制定及び改定に対する分科会委員コメント対応について (第 52 回安全設計分科会中間報告)
資料 No.89-2-2-1	原子力発電所運転責任者の判定に係る規程 (JEAC4804) の改定について
資料 No.89-2-2-2	原子力発電所運転責任者の判定に係る規程 JEAC 4804-202X 改定案
資料 No.89-2-2-3	「JEAC4804-202X 原子力発電所運転責任者の判定に係る規程」新旧比較表
資料 No.89-2-2-4	JEAC4804 改定案 (中間報告) に関する運転・保守分科会から頂いた意見等
資料 No.89-2-2-5	JEAC4804 改定案 (中間報告) に関する原子力規格委員会から頂いた意見等
資料 No.89-2-2-6	JEAC4804 改定案 (書面投票) に関する運転・保守分科会から頂いた意見等
資料 No.89-2-2-7	規格制改定時に対象とした国内外の最新知見とその反映状況

資料 No.89-3-1-2	JEAC 4622 「原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程」の新 旧比較表
資料 No.89-3-1-3	原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 JEAC 4622-20XX 改定案
資料 No.89-3-1-4	JEAC4622 改定案に対する安全設計分科会中間報告意見・コメント対応表
資料 No.89-3-1-参考	規格制改定時に対象とした国内外の最新知見とその反映状況
資料 No.89-4-1	JEAC4601-2021 の誤記について 【84-4 訂1】
資料 No.89-5	令和5年度 原子力規格委員会 功労賞 推薦申請者一覧
資料 No.89-6-1	2023 年度活動実績及び 2024 年度活動計画 (案)
資料 No.89-6-2	2024 年度各分野の規格策定活動 (案)
資料 No.89-6-3	2024 年度各分野の規格策定活動 (案) (見え消しなし)
資料 No.89-7-1	第9回原子力規格委員会シンポジウム プログラム (案)
資料 No.89-7-2	検査制度見直しに関する国の動向等
資料 No.89-8-1	技術評価を希望する学協会規格
資料 No.89-9-1	ISO 規格の検討状況について
資料 No.89-9-2	第88回原子力規格委員会 議事録 (案)
参考資料-1	日本電気協会 原子力規格委員会 規約
参考資料-2	日本電気協会 原子力規格委員会 活動の基本方針
参考資料-3	日本電気協会 原子力規格委員会 規程・指針策定状況
参考資料-4	日本電気協会 原子力規格委員会 委員参加状況一覧